

第19回 手話通訳技能認定試験（手話通訳士試験） 「読取り通訳試験」問題（要約文）

第1問「運 転」

<要約文>

ろう者の運転免許取得が増えており、事故経験者もいると思います。私の事故の経験を話します。

私は26年前に運転免許を無事取得しました。車を購入し、届いた車は真赤なボディのかわいい車で、嬉しかったです。

ろうの友人二人と和歌山県にドライブに行きました。山道をずっと登っていき、運悪く雨が降ってきましたが、カーブを曲がりそこねてガードレールに激突しました。車は大破。三人とも怪我をして、救急車で運ばれました。

翌朝、警察に呼ばれ、筆談で話をすると、その場所は死亡事故多発場所で、三人とも無事だったことは凄い！ 運が良かった！ と言われました。

これからは事故を起こさないように、カーナビを付けて安全運転をしていこうと思っています。

第2問「太 鼓」

<要約文>

昔、子供の頃、夏祭りは通りがにぎやかになります。私は太鼓をたたく姿のかわさきに惹かれましたが、自分は聞こえないので残念だと思いつつ、成長しました。

その後、地元で、太鼓をやりたいとの意見が出て、皆でやろうということになり、20人くらい集まりました。

友人に指導を頼んだら、知り合いを紹介してくれました。先生からは、あと3ヶ月で練習できるのかと言われ、腹がたちましたが、皆で一致団結してやろうと自分たちの意志を示しました。週に2～3回、仕事を終わるとすぐに集まっては厳しい練習を重ねました。

大会当日になり、本番の公演を終えました。私はとても燃えましたし、とてもよかったと言われました。先生も「大会の公演を見てろう者にもできる、とても感激した」と言い、涙を流されました。私も大変よかったと思いました。

第19回 手話通訳技能認定試験（手話通訳士試験）

「聞取り通訳試験」問題

第1問「サッカー哲学」

日本のサッカーは、その歴史の中で、1964年のオリンピック東京大会でのベスト8入り、4年後のメキシコシティ大会での銅メダル獲得など、輝かしい記録を残しています。

この時期の活躍はドイツから招へいされたクラマーコーチによる徹底的な基礎練習があったからとされていますが、コーチが教えたのは技術のみではありません。「グラウンドはサッカーだけをやる場所ではない。人間としての修練の場である」「ガールハントをし、酒を飲み、たばこを吸いながら一流のプレーヤーになるのは不可能。サッカーは心の教育である」などなど。ただ勝てばいいのではなく、人間性や礼儀を重んじる彼自身のサッカー哲学を伝えたのです。

1969年には、メキシコシティ大会の日本チームに対して、ユネスコからフェアプレー賞が贈られました。「6回の厳しい試合の中、日本選手はよくルールを守り、ラフなプレーがなかった」「競技場の外での日本選手のマナーは、スポーツマンとして模範とすべき」というのが授賞理由でした。

第2問「消費者トラブル」

全国の消費生活センターに寄せられた相談のうち、契約当事者が70歳以上の相談件数は毎年増加し、2000年度4万3千件であったものが、2005年度にはおよそ14万件に達した。

中でも、一人の消費者に業者が商品を次々と販売する「次々販売」。若者への「次々販売」は減る傾向にあるが、高齢者へのそれは増える傾向にある。トラブルの多い商品としては、布団類、着物類、屋根工事・増改築工事などがある。平均契約購入金額はおよそ210万円だが、これは他の年齢層と比べておよそ75万円も高い。特に年金生活者などの場合はダメージが大きく、深刻な事態を招きかねない。

トラブルに遭わないためには、きっぱり断ることが重要だ。相手の手口を知ることも強力な武器になる。高齢者自身とその周辺にいる人達が被害の防止対策を講じる必要がある。